

問1 保元の乱から平治の乱へと続く一連の動乱が、日本の支配構造に与えた影響を説明した文として、適切なものはどれですか。

(2022年 島根公立入試 類似)

1. 軍事力を持つ武士が政治の実権を握るようになり、貴族中心の政治から武士中心の政治へと移行するきっかけとなった。
2. 天皇の権限が絶対的なものとなり、院政が廃止されて武士は再び地方の警護を専門とする役職に戻った。
3. 全国に守護と地頭が設置されることで、地方武士が守護大名として独立し、幕府を介さない政治が行われた。
4. 公家と武士の融和が進んだ結果、武家諸法度が制定されて武士の行動が厳格に制限されるようになった。

問2 平安時代中期、藤原氏が天皇の母方の親戚（外戚）という立場を利用して権力を握りました。天皇が幼少のときに代わって政治を行う役職と、天皇が成人した後にその補佐を行う役職に就いて行われた政治体制を何といいますか。 (2018年 秋田県公立入試 類似)

1. 摂関政治
2. 院政
3. 律令政治
4. 武家政治

問3 平安時代に発生した藤原純友の乱が、その後の日本の歴史においてどのような意義を持ったか、その背景を含めて説明したものとして最も適切なものはどれか。 (2023年 愛媛公立入試 類似)

1. 東北地方の蝦夷を服従させ、朝廷の支配地域を北へ大きく広げる契機となった。
2. 朝廷が自らの軍事力で反乱を鎮圧できず、武士の力を借りたことで武士の台頭を促した。
3. 源氏と平氏が対立するきっかけとなり、武家政権である鎌倉幕府が成立する直接の要因となった。
4. 海賊の取り締まりを強化したことで、日宋貿易における海上交通の安全が確保された。

問4 平氏政権が当時の中国の王朝である宋（南宋）との貿易を重視し、大規模な港の整備や航路の確保を行った最大の理由として、最も適切な説明はどれですか。 (2022年 佐賀公立入試 類似)

1. 宋と軍事同盟を結び、東国で勢力を伸ばしていた源氏を海から挟み撃ちにするため。
2. 貿易による莫大な利益と宋銭などの輸入品を、一門の権力を維持するための経済的基盤にするため。
3. 仏教を日本に広めるため、宋から大量の経典や僧侶を招くための安全な窓口が必要だったため。
4. モンゴル帝国の侵攻に備え、博多に代わる新しい防衛拠点と補給路を確保するため。

問5 奥州藤原氏が平泉に中尊寺金色堂を建立した背景や目的について、当時の社会情勢を踏まえた説明として最も適切なものはどれですか。 (2024年 愛知公立入試 類似)

1. 前九年の役や後三年の役といった激しい戦乱の犠牲者を弔い、仏教の力によって平和な理想郷である極楽浄土を現世に表現しようとした。
2. 鎌倉を拠点とする源頼朝の軍事力に対抗するため、堅固な防壁を備えた軍事要塞として金色堂を機能させようとした。
3. 太宰府を通じて行われていた大陸貿易の利権を独占し、富を誇示することで京都の朝廷を政治的に制圧しようとした。
4. 東北地方に独自の宗教を広めるため、京都の平等院鳳凰堂を模倣せず、金箔を使用しない質素な建物を目指した。

問6 平清盛は、武士として初めて政治の実権を握る際、藤原氏が用いた「摂関政治」の仕組みを模倣しました。平清盛が自身の権力基盤を固めるために行った具体的な行動として、最も適切なものはどれですか。 (2021年 埼玉県公立入試 類似)

1. 娘の徳子を高倉天皇の后とし、その間に生まれた安徳天皇を即位させて外戚となった。
2. 武力によって京都の朝廷を完全に解体し、鎌倉に独自の政治拠点（幕府）を開いた。
3. 自らが上皇となり、摂政や関白を介さずに直接政治を行う「院政」を開始した。
4. 遣唐使の派遣を継続し、唐の進んだ政治制度を取り入れることで中央集権化を進めた。

問7 平安時代に流行した浄土信仰に関連して、当時の人々が行った活動や文化的な影響について説明したものとして、最も適切なものはどれですか。 (2016年 鳥取公立入試 類似)

1. 未来に仏の教えを伝えるため、教典を筒に入れて地中に埋める「経塚」が各地で作られた。
2. 座禅によって自ら悟りを開く修行が重視され、武士の精神的支柱となった。
3. 国家の安定を願うため、聖武天皇の命により全国に国分寺や国分尼寺が建てられた。
4. 法華経の教えを広めることで、戦国時代の京都において町衆が強い団結力を持った。

問8 11世紀後半から始まった、天皇が位を譲って上皇となった後も、天皇に代わって実権を握り続けた政治形態を何というか。

(2024年 新潟県公立入試 類似)

1. 摂関政治
2. 院政
3. 武家政治
4. 親政

答え合わせ・解説

問1	答え 1 軍事力を持つ武士が政治の実権を握るようになり、貴族中心の政治から武士中心の政治へと移行するきっかけとなった。	保元の乱において源氏や平氏の武士が活躍したことで、それまで貴族の「奉公人」的な立場であった武士の地位が劇的に向上しました。この乱の結果、武士は単なる兵力ではなく政治を動かす主体となり、平清盛が太政大臣に就任するなど、武家が政治の表舞台に立つ「武家政権」の時代を切り拓くことになりました。
問2	答え 1 摂関政治	藤原氏は自分の娘を天皇の后とし、その間に生まれた子を次の天皇に立てることで、天皇の祖父や叔父として強い影響力を持ちました。幼少の天皇を助ける「摂政」と、成人の天皇を助ける「関白」の職を独占したことから、この政治形態は摂関政治と呼ばれます。藤原道長・頼通の親子がその全盛期を築きました。
問3	答え 2 朝廷が自らの軍事力で反乱を鎮圧できず、武士の力を借りたことで武士の台頭を促した。	藤原純友の乱や平将門の乱といった大規模な反乱に際し、当時の朝廷には自力でこれらを鎮圧するだけの軍事力が不足していました。そのため、地方に根を張っていた他の有力な武士を動員して鎮圧に当たらせる必要がありました。この結果、武士は朝廷にとって不可欠な軍事力として認められるようになり、のちの武家社会の形成につながる大きな背景となりました。
問4	答え 2 貿易による莫大な利益と宋銭などの輸入品を、一門の権力を維持するための経済的基盤にするため。	平清盛は、武力だけでなく経済力によって政権を安定させようと考えました。大輪田泊を整備して日宋貿易を本格化させ、宋から輸入した宋銭を国内で流通させることで、貨幣経済の先駆けとなりました。この経済力が、平氏の「平氏にあらざるば人にあらざる」と言われるほどの全盛期を支えました。
問5	答え 1 前九年の役や後三年の役といった激しい戦乱の犠牲者を弔い、仏教の力によって平和な理想郷である極楽浄土を現世に表現しようとした。	奥州藤原氏の初代清衡は、一族が巻き込まれた凄惨な戦乱を経験したことから、敵味方の区別なく戦死者の魂を慰め、争いのない平和な世界を願って中尊寺を建立しました。金色堂はその中心的な建物で、浄土教の思想に基づき、金箔や螺鈿細工を用いて極楽浄土の光景を具体的に再現しようとしたものです。
問6	答え 1 娘の徳子を高倉天皇の后とし、その間に生まれた安徳天皇を即位させて外戚となった。	平清盛は武士として台頭しましたが、政治手法は藤原氏と同様に、天皇との親戚関係（外戚関係）を利用するものでした。当時の系図によれば、清盛の娘である徳子（建礼門院）が高倉天皇の后となり、その間に生まれた安徳天皇を即位させることで、清盛は天皇の祖父として実権を握りました。これは武力による支配だけでなく、朝廷内の伝統的な権威を継承したことを意味します。
問7	答え 1 未来に仏の教えを伝えるため、教典を筒に入れて地中に埋める「経塚」が各地で作られた。	浄土信仰の広まりとともに、伯耆一宮経塚のように教典を地中に保存する「経塚」が全国的に作られるようになりました。これは、末法の世において仏の教えが失われることを防ぎ、あわせて自身の極楽往生を願う当時の人々の切実な信仰心を表しています。
問8	答え 2 院政	1086年に白河上皇が始めた政治の仕組みです。天皇の父や祖父にあたる上皇が、天皇の私的な役所である院庁（いんのちよう）を通じて政治を動かしました。これにより、藤原氏が摂政や関白として権力を振るった摂関政治を抑える狙いがありました。